

第十四章 創立四十年

一 振替番号第五番

中村日記の明治四十一年一月十二日に

「本店改築工事積書出来セリ金額約十四万円ナリ直ニ清水組係員ヲ呼寄せ仮契約ヲ締結セリ」

とあり、工事はいよいよ着手されようとする。

「学鑑」の新年号の「巻頭宣言」に「興国の機運は熟せり、戦勝の光誉をして益々燦爛たらしめんとする平和の事業は今年以後いよいよ盛ならんとす」といって、日露戦争後すでに三年目になろうとするのに、まだ大勝の宿酔から醒めない。しかし文化の戦に怯たらば戦勝は畢竟ゾールー人に類する土蛮の行為のみとは、内田魯庵が日清戦争の直後から声を大にして叫んでいる信念で、それがこの宣言にもくり返され、丸善は「海外文物輸入の先駆たるを任ぜず」と謙遜しているのは、内心それに任ずる自負を示しているので、創業まさに四十年、多くの事業の一起一倒して、興亡常ならぬ中に、時としては孤城残塁による悲境に遭遇したが、いまや宿昔の志望を達する一段階に立った。

「今や弊社は業務拡張の準備中なり。その拡張や敢て諸君子に告ぐる程の大規模を一時に行うにあらざれども、

かくの如く漸く発展の第一途に就くを得たるは諸君子の庇保に外ならざるを信じて、ここに年頭にのぞみて深くこれを感謝しておかざる也」

宣言の裏頁でまた云っている。

「弊社事、市区改正のため且つ事業拡張のため、改築仕り候につきては、現在家屋の大部分を取り毀ち、愈々狹隘と相成り、随って日に愈々新着する商品全部を陳列するを得ず候まま、御一覽あつて御見当りなき品なりとも一応店員に御下間被成下度候。且つまた業務取扱上、自然不行届に流れ候廉あるやも計られず候へども偏に御寛大を奉仰候也」

これは丸善株式会社の書籍部、文房具部、洋物部の三者連名の挨拶となっている。そして「御注文送金の新便法」として「郵便振替貯金の応用」をすすめている広告面には、明治三十九年三月から利用している振替口座番号第五番の東京丸善、第七四番の大阪支店について、第九八九〇番の京都支店が新たに肩をならべている新陣容が目をひく。

二 洋品部の盛況

飯店は狭いといっても、書籍と文房具、雑貨が一階の同じ階に並列せられているのが便利とせられ、中には丸善にきて書籍にしか目をつけなかった顧客が、今さらのように文房具や帽子、ステッキの装身具まで並べているのに気がついて、これを求めだしたような例もあって、便利がられて、活況を呈したことは前に書いたが、仮りにここ

で、この年売られた文房具と雑貨の広告を「学鑑」から拾ってみよう。中には数年、十数年前から引きつづいてそのまま継続輸入している品もあり、同じ物で品目を増したのもあり、また全く新しいものもある。

○ルーズ・リーフ式手帖 (Loose Leaf Ring Book)

この取りかえ自由の便利な手帖がはやりだしたのは、このころからで、間もなく日本でもまねて盛んに製作せられるようになった。

○万年筆 ウォターマン、ペリカン、オノト、スキフト、カウス、レミックス、グラビチー

種類がこれだけたくさんふえたのである。(明治二十九年の項の一種であったのを参照)

○丸善最上インキ

○キセロール (Xerol) 化粧品 石鹼 (Savon Antiseptique) クリーム (Crème) 白粉 (Poudre de Riz) 歯磨 (Pate Dentifrice)

これには某伯爵夫人談と称する「西洋の新化粧品」という長い記事が「都新聞」から転載せられている。それによると閑院宮家の家令の松井式部官の夫人からきいて知ったのだが、フランスのリヨン大学のペローという薬学博士の発明で、もとはギリシャで産する植物から取ったので、甘い香気を放つ殺菌剤をふくんでいて、肌にも、歯にも非帯によい……とある。

○最新式状刺各種 (Letter File)

○変用万能録



明治41年「学鑑」広告

形は小さいが十四種、十八種、乃至二十五種につかえるので、旅行用の要具

○書類挟 (Letter Clips)

○ウェリントン自動紙綴機 (Wellington No. 2 Automatic Paper Fastener)

○ウェリントン・タイプライター (Wellington Typewriter No. 2)

○ジョンストン会社製 天球儀及地球儀 (Johnston's Terrestrial and Celestial Globe)

○複写紙 (Carbon Paper)

これがあまねく用いられたしたのは、やっぱり小さな机上革命であった。

○万年筆 (再)

○インキ (再)

○セルロイド製・はいから枝折 (Book Mark)

○理想的最高化粧水 (Larola)

○本立 (Book Supports) 書籍台 (Book Racks)

押紙盤 (Desk Blotting Pads)

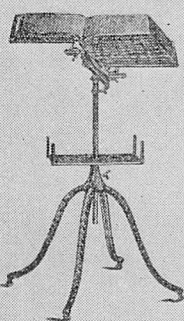
○新式料紙文庫 (Tourist's Stationery Case) 書篋

封筒、ペン、インキ、切手、手帳その他手紙日記をかくに必要なもの一さい入った手提げ。

此項を諸君に告ぐるに先んて此項の文法師より既に告出せ

既に 大字典あり
従つて 字書臺は必ず 缺く 能はず

最も多く 大字典を 購得するは 最も 確實に 頭腦を 養ふ 所以、字書臺
章ありて 利便に 最も 手輕に 最も 放捷に 大字典を 使用するを得



金 十二 二 國

進歩も 歩みも あり

理想 的 最 高 化 水



店 賣 小 物 洋 善 丸

明治 41 年「学鑑」廣告

○キユチキユラ石鹼 (Cuticura Soap)

欧米にキユチキユラの名のあまねく知られてい
ること、江戸の「梅花香」や「花筏」の如く、文
明の紳士淑女でこれを知らぬ者に出会わんとする
は、初鰹の味を知らぬ江戸ッ子を見るよりもつ
と六つかしい。

○ゼプト (Zept Antiseptic Tartar Remover)

筆齒磨と訳している。歯を清潔にするもの

○字書台

○帽子 (バナマ帽、レゴーン帽、水辺散策用帽子、
麦藁帽)

○護謄外套 (インバネス形、筒袖、小供用インバネ
ス形)

○センチリイインキ

今年五月、第二回内国製産品評会で「名誉金牌」
をもらいたての新インキ。丸善がインキの製作に



明治41年「学鑑」広告

○田丸式永世カレンダー（中村不折図案）

「この掛曆は昔でも今でも未来でも勝手な時の勝手な月の七曜を極めて手軽に見得る仕掛である」

○クリスマス御進物

舶来書箋封筒（粧飾函入） マジヨリカ花瓶
 墨汁壺 切子型インキ壺（飾台付） 石膏レリーフ（新海氏作） 同上半身像 切子文鎮 ブロンズ文鎮 万年筆各種 純金ペン 特種手帳各種 ルーズリーフ手帖 文房要具各種 玩具その他のキュリオ 新年カード カレンダー（画曆） 縮緬紙カレンダー トイブック各種 ペインチング・ブック数十種 レッツ日記 美術画帖各種 状挾各種 新刊小説 袖珍詩集 進物用特製書籍 安全剃刀 莫岩灰皿 香水・化粧水 舶来白粉 タルカム・バップ 嗅ぎ香水

右の外書籍、文房具、服飾品、化粧品等数百種類、何れも美麗なる箱入に調進仕候

Obloc Notes

これには訳語がついていないが、いま日本でいう卓上カレンダーが初めて輸入されたのである。めくり式ノートとでも云うべきか

○新式封筒書箋

そして、最終の十二月で次のように結んでいる。

「冬季の洋物小売部は仮営業場移転を機として、例年にまして著しく贈答品を増加し、如何なる向きの御進物にも適するよう準備したり。恐らくは最も実用的にして最も趣味的なる万人が万人に向く文明的御贈答品は此小売部に於て随意に御求め得らるべしと信ず

丸善洋物小売部」

けだし「最も趣味的なる」の一句が眼目で、いかに実用的で軽便でも、台所用品、たとえば洋式食器掃除器のたぐい、また又どんなにハイカラでも農業用具などの広告が見えないのは、たしかに一特徴である。

三 書棚概観

創業四十年といえは半世紀に近く、その間風雪に耐えてきて存続し、大なり、小なり発展して、新館の建築にまで着手した。もし経済的にのみ見て比較すれば、三菱その他数四の大財閥がほぼその期間に獲得し、蓄積した暴富にははるかに及ばぬので不成功という事もできるが、何人もまね手のない、日本ではほとんど唯一の仕事をした文化

的貢献度の大きさから云えば、容易に他の追隨をゆるさぬのは、大成功とも云える。

そこで一応この時点で、「学鑑」の一カ年が、いかなる書物をのせているか、もちろんその悉くは拾いきれないので、とくに力をこめて宣伝につとめていると思われる書名をたどって見ると、何人も福沢諭吉がアメリカからウィルソン・リーダーやクワッケンボスのアメリカ史はじめ各種の初等教科書、バーレイの万国史、スイントンの世界史などを輸入したのを継続して始めたこの仕事が、今や全く面貌を異にした業態になっているのに、はるばる来る旅をしぞ思うの感慨を禁じ得ないであろう。

○ケンプエル日本志(四頁) 前章に紹介

○ヴェンクシュテルン「大日本書史」(二頁) Bibliography of the Japanese Empire, Vol. II

徳富蘇峰が国民新聞にのせた「東京だより」(これに書評がのると当時最高と思われた)の書評全文がのっている。

「日本書史第二篇は一八九四——一九〇六年間すなわち明治二十七年——明治三十九年間に於ける歐洲語において、欧、米、東洋において出版せられたる一切の日本に関する書籍の目録および簡單なる解題を本体とする……」

○Chambers's 20th Century Dictionary (一頁)

○蘇国アカデミー派画伝 (The Royal Scottish Academy) (半頁)

○The Brothers Maris, James-Matthews-William: the Summer Number of "The Studio" (1頁)

仏のバルビゾン派の特長を継承して風景画を以てしては実に現代に冠たるマールリス三兄弟(蘭)

○マイエル独逸大百科全書 (Meyers Grosses Konversations Lexikon) (1頁)

○マイエル独逸小百科全書 (Meyers Kleines Konversations Lexikon) (1頁)

このマイエルの大小百科全書については数年前から、目立つ広告が出ている。

○Whitaker's Almanac for 1908, Who's Who 1908, Daily Mail Year Book for 1908, The Practical Engineer Pocket Book for 1908, Almanach de Gotha 1908, Gothaische Genealogischer Hofkalender 1908 (2頁)

この類書を一括し Just Received とつてある。

○ウエブスター大字典 (1頁)

前々から連年この広告は出ている。

そして巻末に、おそらくその時丸善の書棚にならべてあったと思われる書目が Monthly Bulletin として一頁二十五乃至三十の書名と定価が掲載されている。もちろんこれは毎月あり、この新年号は二十二頁で、例月とは十頁ほどの差があるが、内容は若干の移動をのぞいて大同小異であるから、ここにその分類と、そこに拾われている書種目の数だけをおこう。分類の順序は Agriculture and Forestry が最初、Theology and Religion が最終でアルファベット順なのである。

Monthly Bulletin of International Bibliography. Lately Published and Imported from America, Austria, China, England, France, Germany, India, Italy, Korea, Russia, Scandinavia, Spain and Other Countries.

農業及林業 七種 娛樂及遊戲 一種 人類及人種学 一種 建築及造営学 三種 書籍学 一種
伝記 九種 化学 七種 商業及銀行 五種 字書文法会話付百科全書 八種 家政学 四種 教
育 十一種 電気磁気及電気工学 八種 演説書類 三種 工学及重学 三十二種 美術 十四種
地理学紀行及案内書類 十三種 地質及鉱物学 三種 史学 三種 日本朝鮮支那及東方書類 十種
法律書 十三種 文学 五十七種 製造及工芸 十六種 数学 六種 医学及衛生学 四種 博物
学 十五種 物理学 七種 海陸軍及海事書類 三種 哲学 十種 写真術及印刷術 一種 詩文
及戯曲書類 二十八種 政治経済及社会学 三十七種 神学及宗教 七種

三十二分類で、三百四十七種目である。もつてようやく全盛期にはいつてきた丸善の店の全面貌、全業態の推察の手がかりになる。思いの外書目の数が少いようにも感じられるが、一書目一標題で数冊、数十冊からなるのもあり、又この分類に洩れているものもある。子供用の絵本のような店頭をにぎわすものが脱漏している。併しこの翌四十二年に初めて丸善の京都支店に入った筆者の記憶によると、初学向又は小児用の参考書や絵本もたくさん並んでいた。

以上一月号

○日露戦役国際法・陸上関係・有賀長雄著 *La Guerre Russo-Japonaise, Au Point du Vue Continental et*

Droit International. Par Nagao Ariga (1頁)

○ウィンバ・マガジン「クリスマス号」*The Christmas Windsor Magazine* (11頁)

○The Oxford and Cambridge Review (1頁)

○Maeterlinck's Novels (半頁)

十一書目をおさむ。もちろん劇と論文感想で、普通にいう小説の著作はメエテルリンクにはあるまい。

○Meredith's Novels (半頁)

十四書目、もちろん喜劇論や詩集もはいっている。メレディスは難解で、日本の英文学界でもてはやされたことはなかったが、この前年夏目漱石の小説「虞美人草」があらわれて、メレディスの影響の顕著なことが指摘され、さらに大学の講義「文学論」が出版されて、漱石がメレディスを愛読することの深いのがわかり、急に読書界の注目をひくいたのである。

○The Exploration of the Caucasus. By Douglas W. Freshfield (1頁)

○台灣統治論 (Japanese Rule in Formosa. By Yosaburo Takekoshi) (1頁)

○The Future of Japan with a Survey of Present Conditions. By W. Petrie Watson (1頁)

○Memoirs of Prince Chlodwig of Hohenlohe. Tr. by George W. Chrystal (1頁)

○Lafcadio Hearn's Works (1頁)

十一種をなれむ

○The Life and Letters of Lafcadio Hearn. By Elizabeth Bisland (一頁)

以上二月号

○Mother. By Maxim Gorky (半頁)

○十珍画譜 (一頁)

Drawings from the Old Masters 三シリーズ

Gowan's Humorous Masterpieces 五冊

Gowan's Art Books 十二冊

昭和になってからだが、これと同じサイズで講談社から「アート・ブックス」という叢書が出たことがある。もともそれはこんな古いものから思いついたのではなからう。

○The Nuttal Encyclopaedia (半頁)

ナツタル百科辞典として非常に重宝がられたものである。

○Allgemeine Länderkunde (全一頁)

Sud und Mittelamerika, Europa, Afrika, Australien, Ozeanien und Polarländer, Nordamerika, Asien

の六冊

○英国造園史 (The Gardens of England) Studio の冬期増刊 (一頁)

○ステュディオ図按年報 (The Studio Year Book of Decorative Art, 1907) (一頁)

○Chemiker-Kalender, 1908 (一頁)

○演劇関係書類 (二頁)

その広告(全文)「或は帝国座の新設、或は高等演芸場の計画の如き、演劇の機運勃興の秋に際し、芸術上文学上、將た、劇場事務上、以て其参考とすべき書類は、今や続々新着し来らんとす。沙翁劇の研究書たるフアーニス、クレイグ等の諸註の取揃えるは云うまでもなく新脚本たるピネロ、ショー、ジョーンス、ヒリップ、マーレー等、英国専門劇作家の名著を初め、ロスタンの「シラノ」及び「ファンタステックス」、或はズーダーマンの「マグダ」の如き当今欧米の劇壇に最も声誉あるもの、或は又近く続刊しつつある英国劇界明星伝中の既刊書テリー、ウキンダム、トリ、ギルバート等諸名優の伝記、論纂には又シドニー・リーの「沙翁劇及び現時の劇場」の如き、ヘスチングの「ゼ・シェアター」(各国劇場大観)、アーチャーの「ナショナル・シェアター」(国立劇場論)の如き、扱てはアーチャーの「ゼ・シェアトリカル・ウワールド」(劇界消息及批評)の千八百九十三年より九十七年に到る五巻の英国演劇批評の如き最も劇道の参考に資すべき名著也。其の他イブセンの全集は勿論イブセンに關係ある諸書例へばイブセン伝数種「イブセン劇の鍵」、「イブセン尺牘集」等の如き、或は又オペラの解説、及びオペラに關する諸書等続々輸入す。好劇の諸君は勿論、苟くも文芸に興味を有する諸君は必ずや如上の書中会心の佳什を發見し給うべきを疑わざる也」

帝国劇場の竣工・開場するより三年前にこれだけ演劇関係書に力を入れているので、イブセンは漸く流行の潮に

乗ろうとしていたが、この中の「マグダ」は数年後に松井須磨子の当り芸として世論を沸騰し、「シラノ」は又白野十郎として翻案されてあの難解なものが思いの外に庶民層にまで親しまれたことを思えば、恰もそれを見したような、この広告文の筆者の見識をみとめざるを得ない。

○フランソワ・ゴアン氏「語学教授及研究法」(François Guin, *The Art of Teaching and Studying Language*) (一頁)

以上三月号。

○The Whitefriar's Art Portfolio

客室や書斎をかざる複製画、一包に十一面入り、十七面入りと両様ある。ロンドンでたちまち数万部をうりつくした。

○Prehistoric Japan. By Neil Gordon Munro (一頁)

これにも「国民新聞」の「東京だより」の蘇峰の評をにかけている。それによると著者は坪井博士のコロボクル説を否定している。なおこの著者には *Coins of Japan* の著書がある。

○英文三家庭譚 (*The Three Homes by the Very Rev. F. W. Farrar, adapted & abridged by T. Murai*)
有名な宗教的家庭小説で、この省略版は広く学校教科書として、わが国の諸学校でも用いられた。

○Ibsen. By Edmond Gosse (一頁)

○New International Encyclopaedia. 20 Volumes & Companion Volumes (一頁)

ブリタニカ、センチュリー、独文のマイエルなど売りひろめた後で、よくも需要者があるのだと驚かされる。

○海洋画家ワイリー画伝 (W. L. Wyllie. By Admiral Sir Cyprian Bridge) (1頁)

○The Romance of Woman's Influence. By Alice Corkran (1頁)

○Academy Architecture, 1907 (1頁)

○The Works of Henry A. Jones (1頁)

全八冊「ジュー・ヘンズは現代英国劇壇の河竹黙阿弥也」とある。

○Monthly Bulletin (十八頁)

以上四月号

○In Korea with Marquis Ito. By Geo. Trumull Ladd (1頁)

○年代紀字書 (Haydn's Dictionary of Dates and Universal Information. By The late Benjamin Vincent)
(1頁)

○活ける世界的知識 (以下の諸雑誌名を列記す) Windsor Magazine, Strand Magazine, Wide World Magazine, London Magazine, The Captain, Smart Set, Je Sais Tout, Mon Beau Livre, Munseys Magazine, Review of Reviews (London), Art et Decoration (1頁)

○The Political History of England in Twelve Volumes. By William Hunt and Reginald L. Poole (1頁)

○独文歌麿画伝 (Utanaro. Von Dr. Julius Kurth) (1頁)

○A Gazetteer of Ethnology. By Akira Matsumura (1頁)

○英独写真術のオーンソリナー (Taschenbuch der praktischen Photographie; Ein Leitfaden für Anfänger und Fortgeschrittene. Von Dr. E. Vogel/The Book of Photography; Practic, Theoretic and Applied. Edited by Paul N. Hasluck (1頁)

○Judo: Japanese Physical Culture. By Prof. Sumihito Arima (1頁)

以上五月号

○Nelson's New Century Library (11頁)

アウステイン、ブロンテ、カーライル等英米文学の叢書で十五家七十一冊の書名があがっている。「インジャン薄紙摺」とある。インジャン・ペンバーをもちいたのである。

○George Sand and Her Lovers. By Francis Gribble (1頁)

○半与半 (Han to Han. By Yotsume)

奇書である。「四つ目」といえば日本人のようだが、外人でなくては書けぬ奇想天外のまちがいが出てくるので、著者は外人にちがいない。(1頁)

○英国フットン卿の著書 (Historical Essays and Studies/History of Freedom and Other Essays. By Acton) (11頁)

○レクラム叢書 (Reclams Universal-Bibliothek) (一頁)

これについては前にかいたが、ここでは「レグラム」と濁点をうって読んでいる。この叢書は明治二十年代の丸善の広告に見えているが全一頁の広告紙面をふりあてられたのは「学びの燈」第三十七号(明治三十三年)と、この号である。アンデルセン、ドストエフスキイ、ゲーテ、ハイネ、イブセン、カント、シラー、ショーペンハワー、トルストイ、ツルゲエネフ、チョツケなどの名が見える。

○The Statically-Indeterminate Stresses in Frames Commonly Used for Bridges. By Isami Hiroi

橋梁その他構造における数理上の攻究を簡易に説いたもので、著者は東京帝国大学教授、広井勇博士。アメリカでは大学や橋梁会社で広く用いられている。

○Historic Ornament. By J. Ward (一頁)

○Richthofen's Tagebücher aus China. Ausgewählt und herausgegeben von E. Tjessen (一頁)

○The Nelson Navy-Book. By J. C. Hadden (一頁)

○Geographisch-Statistisches Welt-Lexikon. Von Gottlieb Webersik. (一頁)

○聖書図彙 (The Holy Gospels, with over 350 Illustrations, Notes on the Pictures by Eugene Müntz, and a Chronological and Biographical List of the Painters) (一頁)

○楽譜 (Musik-Alien) (一二頁)

「ワグネル、グリュック、グノー等のオペラの大曲を初めシューマン、シューベルト、メンデルスゾーン等の短

曲類其他樂器及声樂の譜本数十種を輸入したり……」云々

以上六月号

○Summer Readings (六頁)

夏期読書に適する書物を各般にわたってぬき出して並べたのである。

○Funk & Wagnall's The Standard Dictionary (一頁)

○Histoire de l'Art dans l'Antiquité. Par Georges Perrot et Charles Chipiez (一頁)

○Mrs. Beeton's Book of Household Management; A Guide to Cookery in All Branches (一頁)

以上七月号

○Sixpenny Novels (二頁)

一冊二十五錢ぐらいで買えて、わが英書の読書家をよろこばせた。だいたい英書だが、早くトルストイの「復活」が一冊加わっているのが異色であった。ある人が夏目漱石に「どうしたら英文学者になれますか」ときいたら「そうさな、シックスペンス・ライブラリを月に二十冊もよんで、外に新着雑誌五、六冊も目を通したらよからう」と云った。質問者がどぎもをぬかれ「先生は毎月そんなにお読みになるのですか」とかさねて質問すると、「人間わざでそんなに読めるもんか。だからオレなんぞ、英文学者でもなんでもない」と答えたというゴシップがつたわって、とみにこの叢書は有名になった。

○P. J. Möbius-Ausgewählte Werke (一頁)

ハッソーとゲーテ(二冊)とショーペンハワーとニーチェと五冊だけ書目があがっている。

○The Text Books (一頁)

日本で出版された英語教科書十八種。なかには Burke's Select Speeches and Letters のようなむづかしい物もあり、宮森麻太郎の Life of Mr. Fukuzawa もあり、それから上田敏の Victorian Lyre がのっているからこのころまだ需要があったものと思われる。

○Hedin's Central Asia and Tibet (半頁)

以上八月号

○Royal Academy and New Gallery Pictures and Sculpture for 1908 (半頁)

○Die Galerien Europas (半頁)

○近世埃及 (Cromer's Modern Egypt) (一頁)

これはよほど重要視したと見え、批評用のコピーが到着したのを新渡戸稲造によんでもらって、その詳報が前号にのっている。

○福岡博編 青洞発見記 (Kopisch, Entdeckung d'Blauen Grotte auf d. Insel Capri)

カプリの琅玕洞を詩人で画家のコピッシュが探検した詩文を第一高等学校のドイツ語教師の編纂したもの(一頁)

○The Upright Life. By Charles Wagner (一頁)

ワグナーは The Simple Life の著者で、その記書は満洲軍総参謀長児玉源太郎が奉天陣中に携行して愛読し「戦争がすんだら引退してこのような生活をおくりたい」と云っていたといふので有名である。その新著。

○Decadence. By A. J. Balfour (半頁)

デカダンスという言葉が流行したがその概念はつかみにくい時であった。

○Studies in Modern German Literature. By Otto Heller (半頁)

ズーダーマン、ハウプトマン、十九世紀の女流作家の三章よりなる。

○Art in England during the Elizabethan and Stuart Period. Studio の春期増刊 (一頁)

○The Statesman's Year Book 1908 (二頁)

例年出てゐる広告だが、この年はとくに二頁にまたがっている。それだけこの価値が重大視されて来たと言えよう。

○Das Problem der Heirat. Von Anna Huber-Cador (半頁)

○The Irony of Marriage. By Basil Tozer (半頁)

この英独結婚に関する二書は上二の組合せになつてゐる。

○Monism; thoughts suggested by Professor Haeckel's Book The Riddle of the Universe. By Ph.

Marcus, Tr. by R. W. Felkin, M. D.

以上九月号

○近世美術史 (Mother's The History of Modern Painting) (半頁)

○海外新聞雑誌予約

毎年、欧米の定期刊行物の予約は募集しているのだが、この年は二頁にまたがる大広告を出し、特に「丸善外国課」とことわっているのは、この方面の事務の繁多になったことを語るであろう。

○Academy Architecture 1908 (一頁)

○King Leopold's Soliloquy. By Mark Twain

「此世からなる地獄を見よ、谷中村の惨事の如きなお未だ云うに足らざる也」云々 (一頁)

○De Profundis. By Oscar Wilde (一頁)

○Die Dichtung: Herausgegeben von Paul Remer (一頁)

イブセン、トルストイ、ダヌンチョ、メエテルリンク、ワイルド、ワグナア、アイヘンドルフ、ハイネ、クライスト、ホイットマン、シラー。

○English Shop-Front Old and New. By Horace Dan and E. C. Morgan Willmott (一頁)

○自動車問答 (A Catechism of the Motor-Car. By John Henry Knight) (一頁)

まだ東京内にある自動車は寥々たるものであった時、この書の広告は注目するに足る。

以上十月号

○歴史家の世界歴史 巻頭の赤紙広告四頁

異例にも巻頭の赤紙広告を宛てている。これは従来もっぱら、丸善の自家出版および販売を取扱っている日本の書籍の広告に宛てられていた頁である。

○Abel Janszoon Tasman's Journal (1頁)

○Musik-Lexikon. Von Hugo Riemann (半頁)

○Ludwig Thoma's Lausbubengeschichten aus meiner Jugendzeit (半頁)

○Philip's Handy Volume Atlas (1頁)

○Handbuch der Kunst-Geschichte. Von Anton Springer (1頁)

古代、中世、イタリヤ・ルネッサンス、北方ルネッサンス及び十七、八世紀の芸術の四冊からなる。

○Putnam's Commercial Correspondence and Commercial English (1頁)

○Ernst Haeckel, ein Lebensbild. Von Wilhelm Bölsche (1頁)

西十一月号

○Rubens. By Max Rooses (半頁)

○The British Isles depicted by Pen and Camera (半頁)

○Hausgärten Skizzen und Entwürfe aus dem Wettbewerb der Woche (半頁)

○Quer durch Borneo. Von Dr. A. W. Nieuwenhuis (半頁)

○Hospitals and Asylums of the World. By Henry C. Burdett (1頁)

○The Mechanical World Electrical Pocket Book for 1909 (半頁)

○The English Dialect Dictionary. Edited by Joseph Wright (半頁)

以上十二月号

以上、半頁、一頁、二頁、時によって数頁にわたる広告をしている書籍は、もちろん、一回にとどまらず、数号にわたって同文あるいは新規の異文によって宣伝され、時によると二年から数年にまたがるものさえもある。

四 「復活」 翻訳



内田魯庵訳「復活」広告

しかしこの年の丸善における最大の出来事は内田魯庵訳のトルストイ原作「復活」の前編が出版せられたことである。これは明治の翻訳の五指を屈する一つに入るもので、しかも直接間接の社会的影響はこの「復活」が一ばん深大と云える。森鷗外の「即興詩人」は一代の名訳だがこれを歎美するものは文学青年に限られている。二葉亭の「浮草」が金玉の文といってもこれが感化をうけたのは主として花袋、独歩、風葉などの作家のあいだと、ようやく現われなかったインテリゲンチヤのあいだであった。「復活」はしからず、数年後の大正になってからだ、カチューシ

ヤの唄にのって「復活」は全国の隅々にまでひろがった。これはもちろん松井須磨子主演の「復活」劇によるものだが、抱月はこれを劇化するにあたり、魯庵をたずねてその訳本をテキストレージする許可を求める礼をとった。

抱月はイギリス留学中、ツリイとリナ・アシュエル所演の「復活」劇をみて、その感興を「新小説」に送稿した。「ツリイの復活」がこれで、のちに単行本「滞欧文談」におさめられて九十頁におよぶ長編で、およそ劇評にこれほど細緻をつくしたものは空前絶後だろう。つまりそれ程深大なる感銘を受けたことになる。帰朝して早稲田大学の教壇に立つと、間もなくこの訳本が出たので、翻訳研究の科を新設し、テキストにやはりこの魯庵の「復活」をもちいて、その老巧なる訳しぶりの長短の検討にあたらせている。

そして彼の主宰する早稲田文学は、これを批評して「驚くべき内容とともに驚くべき外形を有する書物だ」と云った。

内容はじつに、ゲーテの「ファウスト」と前後の照応をなし、ユーゴーの「レ・ミゼラブル」が小説の演説なら、トルストイの「復活」は小説のお説教といわれ、また「レ・ミゼラブル」が悪魔と聖者の合作という批評をうけたのに対し、「復活」には「予言者イザヤと写実家ゾラの合作」という奇評が出た。毀誉紛々であったのは、それだけ大作なので、じつに一作にして、その経歴、その思想感情を傾注した全トルストイの結晶である。

さらにこの訳書の外形をみれば、まず新発明のポイント活字を初めてもちいたのはこの書で、アンカットにし、表紙にはワットマン画用紙をもちい、挿しこみでなくふた閉じの夫婦箱入りにして、その豪華は漱石の「猫」の凝ったのに匹敵した。

丸善は明治十年代に「新体詩抄」やボッカチオの訳書「想夫恋」を出し、文芸出版に異色を放ったが、二十年代に入ってから以降、びたりとそれを中絶して、もっぱら工芸、農学、医学その他の科学専門書でなければ、辞書や、地図の出版に終始して文学書とは絶縁していたのに、創立四十年記念がこれを思い立たせたか、それとも「献策して聞かれざることなし」というほどの魯庵の勢力で出版したか、いずれにしても明治末期における文学上の一大貢献であった。

五 「ジャン・クリストフ」

「復活」の出版によって、期せずして社会的良心の覚醒に寄与したのと相呼応するように、社内でも社員の徳育のため、講話会を催した。中村日記に

「四月五日 社員ノ商道徳修養ノ為江原素六海老名弾正ノ両氏ヲ招聘シ午後七時ヨリ一石橋会堂ニ於テ講話ヲ聴カシム雇員数名ヲ除ク外何レモ聴講セリ」

ひきつづき五月五日、六月九日、七月十四日におこない、打ちどめは十一月十二日で、日記に次の如くある。

「夜来会社楼上ニ於テ講話会ヲ開ク弁士ハ上田敏及島田三郎氏ニシテ（原文ママ）嶋田ハ開国当時ノ情況上田氏ハ欧米諸国最近ノ見聞ヲ以テシタリ」

上田敏は一月前に帰朝したばかりで、文学会でない商店の講演に出てきた事など、あまり例がない。内田魯庵と相ゆるした仲であったから、おそらくそれに動かされたのであろう。この時「フランスではローマン・ローランと

「作家のジャン・クリストフという小説が熱狂的に読まれている」という話をした。これは恐らくこの小説のこ
とを日本に伝えた最初で、第一次大戦後、わが国でもその訳書が若き読者のあいだに歓迎せられて措かなかったの
を思えば、ここに特記しておくべき理由がある。

中村日記 十二月三日

新築建物ニ付本日午後一時ヨリ上棟式ヲ挙（行）セリ列席者ハ設計者中村博士佐野学士清水組清水釘吉原林
之助岡本田辺町田山田等外下方數十名会社ニテハ小柳津山崎金沢早矢仕内田伴嵯峨野佐野等十数名式後中村博
士佐野学士清水釘吉原岡本田辺山田外一名金原及鈴木ヲ帝国ホテルニ饗応シ午後八時半散会ス会社ヨリノ出席
者ハ小柳津山崎金沢内田早矢仕伴佐野及小生ナリキ